

自己評価結果表【タイプA】（児童養護施設）

共通評価基準（45項目）

I 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		自己 評価結果
① 1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。		a
<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等）に記載されている。		○
<input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。		○
<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。		○
<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。		○
<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。		○
<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。		○

【判断した理由・特記事項等】

基本理念の「愛」「和」「自立」と3つの目ざす児童像、運営の原則・指針等が明文化されている。パンフレット、広報誌、事業計画書、ホームページ等に記載され、事務所、研修室、各ユニット、集団指導棟（体育館）等に掲示されている。職員には園長から、入職時の施設概要説明や研修会、会議、事業計画の作成・説明会等で説明している。入所児童には各ユニットでの掲示やミーティング等で説明している。入所時には、分かり易く説明した「しおり」や、毎月の「園だより」を保護者へ送付することで周知を図っている。

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		自己 評価結果
① 2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。		b
<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。		○
<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。		○
<input type="checkbox"/> 子ども数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設（法人）が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。		
<input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。		

【判断した理由・特記事項等】

社会福祉事業の動向については、改正児童福祉法や県社会的養育推進計画等をはじめ、関係団体の会議やセミナー等への参加により把握している。地域の福祉や子どもの状況については、市の福祉計画、要保護児童対策地域協議会（要対協）、学校、民生委員児童委員協議会（民児協）等との情報交換、児童相談所との情報交換により把握し、施設運営の方向性を定める上での参考としている。また、税理士による会計月次監査から経営環境、経営状況を把握、分析し経営の健全化に努めている。しかし、地域の子どもの関するデータや養育・支援のニーズ、施設入所支援を必要とする子ども等の経営環境に係る情報、課題の把握・分析については、今後の工夫を待ちたい。

②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	b
	<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	○

【判断した理由・特記事項等】

年度毎に事業計画を作成し、取り組む課題を明確にしている。今年度は本体施設の完全ユニットケア化に努め、2か所目の地域小規模児童養護施設を設置しその安定運営を目指している。そして、働きやすい職場環境の整備や働き方改革に対応する年次有給休暇の取得率の向上に取り組んでいる。また、税理士による会計月次監査において経営状況や経営課題が把握、分析され、それを理事会に報告し、会議や朝会を通して職員に周知しその改善に取り組んでいる。それらの事業の実施に必要な職員の確保については、その体制づくりのため職員育成事業のもと、人事考課や研修、キャリアパス等の構築を継続し、仮運用するとともに、具体的な採用活動にホームページや就職説明会、実習生へのアプローチ等を行っている。厳しい採用環境の続く現状においては、更なる工夫や積極的な採用活動が望まれる。

3 事業計画の策定

(1)	中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	自己 評価結果
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

施設の小規模化、地域分散化、家庭的養護の推進等の国や県の方針に対応し、家庭的養護推進計画という中長期計画案を策定している。今年度は、本体施設の完全なユニットケア化のための体制づくりと今年5月に設置した地域小規模児童養護施設の安定運営を計画している。中長期的には、人事考課や研修、キャリアパス等を含む職員育成事業の継続推進と児童家庭支援センターや市町村子育て短期支援事業の実施が一部見直しを経てスケジュール化され、計画が明確になっている。

② 5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a
<input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。	○
<input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○
<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○
<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	○

【判断した理由・特記事項等】

中長期計画を受けて、単年度(令和2年度)の事業計画を策定している。施設のユニットケア化や地域小規模児童養護施設の運営等をはじめ、職員育成事業の内容、実施スケジュール、事業費概要等が記されている。外部専門家と連携して事業標準、人事考課要綱、キャリアパス要綱、研修制度実施要綱等が整備され、仮運用を開始している。また、それらの単年度計画は令和2年度収支予算として計上され、実施状況が評価できる内容となっている。なお、行事については子ども達の意見を取り入れ、計画している。

① 6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b
<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	
<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	○
<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	○
<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	○
<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

事業計画は、年度末に園長、課長、主任等が中長期計画を踏まえて素案を作成し、担当者、担当部署が前年度の状況の評価・見直し計画案を策定している。この計画案は理事会の承認を経て職員に会議等の場で説明し周知を図っているが、計画の実施状況があらかじめ定めた時期、手順で評価・改善には至っていない。計画実施後の評価・見直しが組織的に行われるような仕組みづくりについて更なる改善に期待したい。

② 7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	b
<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	○
<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	
<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

事業計画については、行事計画を中心に子どもの生活にかかわる養育、支援、居住環境等について、保護者にはその月の園だよりとして送付し、また、必要に応じて個別の面談や電話等を活用して周知を図っている。入所児童については、各ユニットで掲示したり、ミーティングの機会を利用し、説明している。しかし、保護者について組織的な活動が難しいことから、更なる周知、説明の工夫が求められる。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	自己 評価結果
① 8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b
<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	○
<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C:Check)を行う体制が整備されている。	○
<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	○
<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	○

【判断した理由・特記事項等】

養育・支援の質の向上については、自立支援計画票を活用し、入所児童の状況、支援目標、課題等を記録。また、個別記録等はシステム化され、情報の共有化と業務の簡素化が図られている。計画実行後の評価と計画の見直しは半年に1回自立支援計画・評価策定会議で合議され、緊急の見直しは個別ケース会議で行われている。年2回の児童相談所との施設ケア会議で養育・支援の確認が行われている。園長、課長、スーパーバイザー等によるスーパービジョン体制も確立され、職員個々の養育・支援技術の向上に寄与している。人権の擁護、侵害防止のためのチェックリストを活用した自己評価や人事考課の中で養育・支援についての評価も毎年行われている。また、第三者評価の受審と自己評価の実施の結果の分析と内容の検討、課題の明確化等も行われている。評価結果を施設として組織的に分析、検討し、共有する事については今後の工夫に期待したい。

② 9 評価結果にもとづき施設として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	○
<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	○
<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	○
<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

養育・支援については自立支援計画実施後の評価結果、自己評価、第三者評価受審の結果により、明確になった改善課題が文書化され、職員間で共有化が図られている。改善課題については、管理者等により計画が策定され、取組が実施されている。その実施状況の評価・見直しも行われている。さらに組織的な取組の仕組みづくりのために、職員の参加等を期待したい。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。	自己 評価結果
① 10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	○
<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	○

【判断した理由・特記事項等】

園長の役割・責任は管理規程や決裁規程に示され、各部署に配布し、広報誌「愛する星たち」に掲載されている。職員会議、ケース会議等への出席や、学校、自治会等の外部の諸会議に出席する等、関係団体や地域にも役割、責任を明らかにし理解されるよう努めている。また、火災、事故等の有事に備えて安全対策管理指針、危機対応マニュアル等を整備し、不在時の委任を含め、対応を明確にしている。警察との連携や消防本部との合同訓練の実施、防犯カメラの設置等、対応に取り組んでいる。財務では税理士の会計月次監査により経営状況を把握し、支出管理、職員配置等の運営改善に努めている。また、中長期経営計画策定、総合的な人事管理制度の導入による職員育成事業も計画され、実施が進められている。

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

園長は全国施設長会議・セミナーや全国社会福祉法人経営者協議会（経営協）の経営管理等のセミナーに出席、インターネットを活用し、児童福祉法改正、経営、法律、政・省令等幅広い分野に関する最新情報を入手している。規程の改訂・新設、全国児童養護施設協議会（全養協）の倫理綱領や運営指針、更には法人の定款、管理規定、就業規則、経理規程等の緒規程について正しい理解と運用に積極的に取り組んでいる。法令等を遵守した法人・施設経営を目指し、職員にも会議等の場で、その周知・指導を行い、職員の意識向上に努めている。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	○

【判断した理由・特記事項等】

自立支援計画の策定、実施、評価、評価の見直し等に関し、担当職員、養護課長、各専門職員とともに自立支援計画・評価策定会議や個別ケース会議、リーダー会議に出席し、助言や課題解決に努めている。また、養護課長、スーパーバイザー、主任とでスーパービジョン体制を確立し、職員の援助技術の向上を積極的に進めている。日頃から子ども達の記録に目を通し、各ユニットを訪問し、子ども達の様子を把握したり、また、年2回の職員との個別面談を通して得た養育、支援の問題や要望等から研修計画に反映させたり、必要な助言を行ったりしている。職員育成のための人事考課の導入や職員研修のための研修制度実施要綱も規定され、計画的に研修が実施されていて、養育・支援力の向上に向けた環境整備が行われている。

② 13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	b
□施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	○
□施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○
□施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	○
□施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○

【判断した理由・特記事項等】

財務については、税理士による会計月次監査の収支分析や入所児童の動態報告から運営状況を把握している。経費節減等の支出管理は職員の協力を得ながら改善を図っており収支状態、財政状態は安定的で健全に保たれている。また、職員との個別面談を通して要望を受け、設備改善、職員配置増、処遇の向上、有給休暇や育児休業の取得等、ワークライフバランスや働き方改革の実施による働きやすい職場環境の整備に努めている。園長、課長、主任による運営会議を開催し、将来の事業展開、経営上・運営上の課題の検討、中長期経営計画の作成に指導力を発揮している。今後は、施設内に同様な意識を形成し、職員全体で効果的な施設運営に取り組むための環境整備について更なる工夫に期待したい。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。	自己 評価結果
① 14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	b
□必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	○
□養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	○
□計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	○
□施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	○
(5種別共通) □各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	○

【判断した理由・特記事項等】

現在、本体施設と2つの地域小規模児童養護施設には必要とされる職員を確保し、専門職員についても社会福祉士、精神保健福祉士、公認心理師、保育士、栄養士等の有資格者が配置され、加配職員も確保し職員充実に努めている。研修には研修計画とその実施要綱も策定され、専門職を含めた研修が実施されている。短期・中期目標とする本体施設の完全ユニット化や児童家庭支援センターの設置等に向けた職員育成・職員体制づくりのために、人事考課・キャリアパス・研修制度等の要綱が整備され、総合的な人事管理制度が仮運用されている。また、計画に基づいた人材確保については、ハローワークや福祉人材センターだけではなく、ホームページへの求人票の掲載、内定制度の導入、大学・専門学校・職員出身校訪問、実習生への接触等に工夫しながら採用活動に取り組んでいるが、年々厳しくなる人材確保についてはこれまで以上に積極的に工夫を重ねながら、採用の成果を上げるよう取り組む必要があり、更なる努力に期待したい。

② 15 総合的な人事管理が行われている。	b
<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができています。	○
<input type="checkbox"/> 人事基準（採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準）が明確に定められ、職員等に周知されている。	○
<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	○
<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	○

【判断した理由・特記事項等】

職員育成事業のもと、外部専門家と連携し、業務標準、働き方の指針の中で「期待する職員像」を明確にし、関連する人事考課・キャリアパス・研修制度等の要綱が作成され、総合的な人事管理制度が仮運用されている。これによって人事基準にもとづく評価、評価に運動した新しい給与制度の実施に向けて、仮運用しながら改善を検討し、本運用の実現に向けて取組み中であり、その結果が期待される。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

① 16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a
<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	○
<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	○
<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	○
<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	○
<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	○
<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	○
<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

外部の専門家と連携し仮運用中である人事考課制度を含め、働きやすい職場環境づくりを旨とし、労務管理体制を整備しているところである。有給休暇、育児休業の取得状況や時間外労働が職員別に把握され改善が進められ、ソウエルクラブの活用、互助会の親睦活動、年2回の健診の実施をはじめ、職員の要望に応じ、スーパーバイザーやこころサポート事業嘱託医との職員面談が実施されている。また、ハラスメント防止規定が作成され、園長による半年に1回の職員との個別面接を通して職員の悩みや職務に関する要望、提案の把握とそれらの改善、解決も行われている。非常勤職員の正職員化や働く環境の改善が進められ、産業医の配置についても検討している。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	○
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

業務標準、働き方の指針の中で「期待する職員像」が示された人事考課制度が仮運用されている。研修計画や実施要綱も作成され、園長による半年に1回の個別面談を実施し、職員一人ひとりの期限を含む目標設定、育成目標の進捗状況及び達成状況の把握等を行っている。目標管理を通しての職員育成については改善の余地があり、課題としたい。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	

【判断した理由・特記事項等】

研修計画や実施要綱も策定され、また業務標準、働き方の指針の中で「期待する職員像」が明文化され、職員に必要とされる専門技術・資格が分かる仕組みになっている。人事考課制度も仮運用されている。職位・職種に応じた内部研修と専門性や勤務経験等に応じて受講を促す外部研修があり、報告と資料の配布で組織内の共有を図っている。研修内容の評価・見直し等については、今後の課題としたい。

③ 19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	b
<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○
<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	○
<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	○
<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○
<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○
(5種別共通) <input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	○

【判断した理由・特記事項等】

研修は年度研修計画に示し、初任者は初任者研修や中堅職員によるOJTをはじめ、専門職員やスーパーバイザー等による内部研修や事例検討会が実施されている。また、関係団体の主催する各種研修、説明会、セミナー等が開催され、職員の必要とする知識、技能等を習得する機会が確保されている。また、スーパービジョン体制も確立され、職員個々の養育、支援技術向上に生かされている。園長・課長は研修効果を確認し、次年度研修に繋げている。職員一人ひとりが、教育、研修の場に参加し、計画的に受けることができる環境の整備については更なる改善を待ちたい。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

① 20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b
<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	○
<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○
<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	
<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

実習生受入のために、心構えや態度、注意事項等が記された「実習に向けて」のマニュアルが用意されている。受入担当者（専門相談員）を配置し、オリエンテーションを実施している。実習生には、学習内容に関し学校側との連携による相談援助実習・保育実習等のプログラムを準備し、期間中にも実習担当教官との進捗状況の確認等の連携を維持している。相談援助実習においては、実習生に自立支援計画を策定して貰い、園内で発表する場も設けている。指導者に対する研修については、外部専門職団体等が主催する養成研修プログラム受講の推奨と、園内での研修体制の構築に期待したい。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		自己 評価結果
①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の実存意義や役割を明確にするように努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	○

【判断した理由・特記事項等】

法人、施設の基本理念、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算の情報等はホームページや広報誌、報告書、パンフレット、施設概要等によって公開されている。第三者評価の受審については、福祉サービス第三者評価事業評価結果として事業報告書や県のホームページで公開されている。苦情については、意見箱「天使のこえ」が第三者委員の協力で速やかに対応が図られ、その詳細は事業報告書に紹介されている。家庭支援専門相談員・里親支援専門相談員の活動実績が細かく事業報告書で公開されている。地域社会への紹介や説明については、ホームページや案内パンフレット、施設概要等で発信している。

②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	○

【判断した理由・特記事項等】

施設における業務の実施、会計処理や取引・契約関係等については、職務分掌や権限・責任が明記された管理規程や施設長専決事項を含む決裁規定をはじめ、経理規程や「社会福祉法人における入札契約等の取扱について」、「社会福祉施設における運営費の運用及び指導について」等に沿って行われている。業務の内容に応じて各部署、担当に配布、通達し情報や認識の共有につなげている。健全な施設経営・運営のため、税理士による会計月次監査の収支分析や経営・運営の改善課題等の助言を受けている。定期的に内部監査を実施し確認を行い、財務内容についても外部に公開する等、公正かつ透明性の高い経営・運営に取り組んでいる。

4 地域との交流、地域貢献		自己 評価結果
(1) 地域との関係が適切に確保されている。		
① 23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a	
<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	<input type="radio"/>	
<input type="checkbox"/> 子どもの個別的状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	<input type="radio"/>	
<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	<input type="radio"/>	
<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	<input type="radio"/>	
(児童養護施設) <input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	<input type="radio"/>	
【判断した理由・特記事項等】		
<p>地域支援規程が策定され、物品や施設設備（体育館、研修室等）の借用マニュアルが整備され地域活動に活用されている。定期的に開催される地域福祉ネットワーク会議に園長が出席し、情報交換を行っている。地域の草刈り、清掃等の作業に職員・児童が参加している。</p> <p>2か所の地域小規模児童養護施設のうち、4年目を迎えるのぼりかわホームは、自治会に隣接している立地条件を活用し、自治会のカレーパーティーや餅つき等に参加し交流を深めている。自治会所有の自動車等を借用したり、良好な関係性が構築されている。</p>		
② 24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b	
<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	<input type="radio"/>	
<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	<input type="radio"/>	
<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	<input type="radio"/>	
<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	<input type="radio"/>	
【判断した理由・特記事項等】		
<p>法人名が国際福祉会とされた背景に、米軍関係者の関与があり、設立時から現在まで米軍関係者によるボランティア受け入れが継続している。クリスマスや基地内への招待等の交流がある。沖縄市更生保護女性会による月に1回の清掃ボランティアが水回りを清掃し、清潔保持に寄与している。学習ボランティアについては、大学生を中心に実施してきたが、4月以降のコロナ感染予防対策の影響により、受け入れが困難となっている。コロナ禍の影響により、人的ボランティアの受け入れは困難な状況であるが、マスクや消毒薬等の寄付があり、物品不足を乗り切ることができた。今後は、地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化し、職員に対する周知の徹底が望まれる。</p>		

(2) 関係機関との連携が確保されている。		
	① 25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域に適切な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	○
【判断した理由・特記事項等】		
<p>児童相談所と、年に2回のケア会議が開催され、意見交換を行っている。要対協、沖縄市民生児協に、園長が出席し、情報共有を行っている。取得した情報について、職員会議で資料を配布し、職員への情報共有を実施している。地域小規模児童養護施設の開設時には、地域福祉ネットワークを活用し、事業の内容・意義を説明することにより、地域の受け入れ体制整備に寄与した。</p>		
(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。		
	① 26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	○
【判断した理由・特記事項等】		
<p>地域福祉ネットワークへの参加を通して、地域の独居老人等に対し、草刈り・清掃等の可能な活動に人的資源の提供を行っている。県の事業である「こころサポート事業」について里親支援専門相談員を中心に、地域の里親家庭への相談支援事業の実施を通じ、福祉ニーズの把握を行っている。地域からの電話相談への対応から、子育て・緊急保護の必要性についてニーズを把握し、関係機関と連携している。地域小規模児童養護施設は、地域自治会と災害時の連携について話し合いを行い必要な支援について検討している。</p>		

② 27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	a
<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	○
<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	○
<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	○
<input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	○
<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

把握した地域の福祉ニーズにもとづき、ホームページ上に電話相談について記載し、広報を行っている。相談事業等を通じて把握した里親家庭の多様なニーズについて、職員間で情報共有し、精神科医等の外部専門家の助言に基づき里子・里親支援を実施している。地域に防災拠点となる避難所があり、定期的に情報交換が実施され、災害時の役割を想定した自治会等関係機関との連携を計画に明示し、被災時の地域支援について備えを行っている。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。	自己評価結果
① 28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。	○
<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	○
<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

子どもを尊重した養育・支援について、マニュアルが整備され日常的に取り組んでいる。チェックリストは、園独自のリストと全国児童養護施設協議会の点検項目を年に1回実施し、自己点検を行っている。全体職員会において、園長を講師とした勉強会を実施している。職員間においても自主勉強会を開催している。児童の呼称については、さんづけ、君付けを基本として取り組んでいる。

② 29 子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。	b
<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	○
<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。	○
<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守るよう設備等の工夫を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	○

【判断した理由・特記事項等】

園内の児童権利擁護規程が整備され、自己点検等の結果に基づき定期的な見直しが行われている。ユニットケアへの移行により、個々のプライバシー保護に配慮した環境づくりが実施されている。施設や学校等のホームページ等への写真掲載については、基本的に保護者・児童の許可を得る体制が確立している。学校との連携について、児童の情報開示の範囲について、職員間・上司等を交えたケース会議を開催し、組織的に対応している。スマートフォンを所持している児童へのSNS マナーや職員の守秘義務の意識付けの徹底についての取り組みに期待したい。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

① 30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a
<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特徴等を紹介した資料を準備している。	○
<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	○
<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	○
<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	○
<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	○

【判断した理由・特記事項等】

毎月園だよりを発行し、個々の児童の状況に応じて、父母、祖父母等の関係者から発送先を選別し送付している。入所時においては、パンフレットやホームページでの説明と同時に、施設内や職員の写真を作成し提示している。施設内のユニットと地域小規模児童養護施設の施設見学を実施している。就学時の適正就学審査について保護者へ説明し、同意を得ている。情報提供については、児童・保護者の特性、環境に応じた個別的な対応について配慮している。

② 31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	b
<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	○
<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	○
<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	○
<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	

【判断した理由・特記事項等】

入所時については、児童・保護者に対して、パンフレット、権利ノートを活用し、園での生活について説明している。入所後については、月に1回の園だよりの送付、電話連絡、自立支援計画の作成時等、保護者の意向聞き取りや、児童の近況報告を実施している。意思決定が困難な児童・保護者に対して、わかりやすい言葉や、文書へフリガナをふる等の配慮を実施しているが、現在はルール化に至る検討段階である。意思決定が困難な子ども・保護者への配慮について、適正に対応できるルール化に期待したい。

③ 32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	b
<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○
<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	○
<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	○
<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	○

【判断した理由・特記事項等】

沖縄県が発達障害等の児童支援のために作成した「サポートノートえいぶる」を引き継ぎに活用している。施設の退所時には、要対協の開催を依頼し、地域支援の移行に繋げている。退所の際には、施設で預かっている児童手当の引継ぎに配慮している。アフターケアについて、文書を提示し連絡先や基本的なアフターケアについて説明を実施している。十分な理解が困難な子ども・保護者に対する配慮について、文書等の工夫が望まれる。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。		自己 評価結果
① 33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。		a
<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。		○
<input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。		○
<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。		○
<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。		○
<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。		○
【判断した理由・特記事項等】		
<p>児童の意見箱として設置している「天使の声」を活用している。小規模化に伴い、投書される意見が減少している。職員と児童の関係性が深まり、職員に対して直接、意見や不満を伝えやすい環境が整備されている。誕生日については、その日にホールケーキを提供し、ユニット内で祝うことが可能となり、メニューについても誕生日の児童の嗜好を確認して提供している。栄養士と児童による給食会議が開催され、児童の意見により、ドレスリングの選択制を導入した。</p>		
(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。		
① 34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。		a
<input type="checkbox"/> 養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。		○
<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。		○
<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。		○
<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。		○
<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。		○
<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。		○
【判断した理由・特記事項等】		
<p>第三者委員は、毎月「天使の声」の投書内容を確認し、職員へ周知・回答作成を行い、掲示物を作成して児童への周知が図られている。第三者委員との個別面談も実施されており苦情解決の仕組みが整備され、機能している。その過程で、児童からWi-Fiの設置について要望があり、設置に向けて取り組んでいる。又、年3回は、苦情処理委員会が開催され、投書内容の集計・分析報告を実施している。</p>		

② 35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	a
<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	<input type="checkbox"/>

【判断した理由・特記事項等】

第三者委員についてのポスターが、各ユニットや管理棟の通路に掲示されている。第三者委員の訪問が定例化しており、児童と委員の顔なじみの関係が形成され、相談しやすい環境が整備されている。相談スペースについては、1対1での対応について配慮し、勉強室や職員室の活用を行っている。

③ 36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	<input type="checkbox"/>

【判断した理由・特記事項等】

子どもからの要望である、Wi-Fiの設置、お小遣いの値上げについて実施に向けて話し合っている。Wi-Fiについては、使用についてのルール作りに時間を要している。個別の相談については、同僚・上司に相談を行い、必要に応じてケースカンファレンスを開催し、組織での対応に取り組んでいる。その際には、記録に残し、情報共有を図っている。慎重な対応と同時に、迅速な対応に期待したい。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。		自己 評価結果
①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	○
【判断した理由・特記事項等】		
<p>事故発生時の対応についてマニュアルを策定し、事故が起きた際には報告書が提出されている。事故発生時はユニット、職種を超えて、発見者による対応を行っている。保護者・児童相談所への報告について電話連絡を速やかに実施している。保護者に応じた報告内容に配慮している。防犯カメラを玄関、出入りに設置しリスクに備えている。事例の収集については、食物による事故等、他施設・他県の事例を発生時に職員間で共有し、リスク管理を行っている。事例収集の手順・分析について工夫が望まれる。</p>		
②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。	○
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	○
【判断した理由・特記事項等】		
<p>感染症対策について、栄養士を中心に外部研修等に参加し、職員への情報提供を実施している。コロナウィルス感染予防対策として、児童・職員の毎日の検温、各ユニット、管理棟へのアルコール消毒液設置、マスクの常備、居室の消毒が行われている。体調不良の児童については、静養室を確保し他児への感染予防対策を実施している。医療の専門家によるコンサルティング等により、職員が適切に対応できる環境整備に期待したい。</p>		

③ 39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	b
<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	○
<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。	
<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	○
<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	○

【判断した理由・特記事項等】

防災マニュアルには、火災・地震・台風等の災害について整備されている。毎月1回の防災訓練を実施し、夜間対応訓練は、年に1回実施している。備蓄については、集団指導棟の1室に確保し、冷房を活用し適切な温度コントロールに配慮している。今年度においては、コロナ禍の影響により、4月から8月にかけての訓練は、地域・他機関との協力要請は行わず、施設内での対応にとどまった。「事業継続計画」については、検討中であり、整備に期待したい。

2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。	自己 評価結果
① 40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	a
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	○
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	○
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	○
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	○

【判断した理由・特記事項等】

養育支援の実施方法について、管理規程・児童の権利擁護規程等に基づき、マニュアルが作成され標準化されている。外部委託による人事考課制度構築が4年目となり、構築過程において、支援の標準的な実施方法についての見直し・文書化に取り組んだ。研修等を通して職員への周知徹底が図られている。

②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	○

【判断した理由・特記事項等】

人事考課制度の導入により、全体的な標準的な実施方法についてのPDCAサイクルが確立された。個々の自立支援計画については、年に2回の評価を実施している。評価方法については、児童・保護者の意見を反映することについて配慮している。ITを導入し、各ユニット、地域小規模児童養護施設と管理棟で情報の一元化をすることにより、標準的な実施方法の作成、評価、見直しを行っている。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	○

【判断した理由・特記事項等】

担当者は、本人、保護者、学校関係からの聴取、日々の記録、ケースカンファレンス記録等により自立支援計画票を策定している。策定の際には、多職種・園長・課長等も含めた合議を実施している。支援困難ケースについては、個別会議を開催し、詳細な情報共有を図り、関係機関からの情報を踏まえ支援計画を策定し、適切な支援方法を確認している。

② 43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	a
<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○
<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○
<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	○
<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	○

【判断した理由・特記事項等】

自立支援計画は、策定から評価まで手順が整備されている。入所当初に、児童相談所とカンファレンスを実施し、子ども・保護者との面談を通じて、ニーズを把握するためのアセスメントを実施している。アセスメントに基づいた、自立支援計画が策定され、日々の活動記録により、年に2回評価を実施している。記録入力のIT化が導入されており、事務所において、一元管理されている。緊急な変更時にも対応する仕組みを整備している。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

① 44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	b
<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○
<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○
<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○
<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○
<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○
<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○

【判断した理由・特記事項等】

養育支援の実施記録については、様式が整備され適切に記録され、情報共有が機能している。ネットワークシステムの構築により、養護記録システムを整備し、日々の入力を各ユニット、地域小規模児童養護施設から行う。管理されたパスワードが職員に付与され、必要な情報についてアクセスする環境が構築され、日々の支援に活用している。毎朝、各ユニットでの朝会后、リーダー・管理職の朝会があり、部門横断での情報共有に取り組んでいる。職員間での記録作成について、差違の生じない要領作成や、指導の工夫が望まれる。

② 45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a
□個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○
□個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○
□記録管理の責任者が設置されている。	○
□記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	○
□職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○
□個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	○

【判断した理由・特記事項等】

個人情報保護規程は整備されている。規程に基づき、ネットワークにアクセスする際の職員パスワードが設定され、管理を行っている。雇用契約書に個人情報保護について明示している。職員会において個人情報保護の観点から記録管理について記録の意味・役割・情報開示について、園長が講師となり研修を実施した。子どもや保護者へは、入所時に文書により説明をし同意を得ている。

自己評価結果表【タイプA】（児童養護施設）

内容評価基準（25項目）

A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 子どもの権利擁護	自己評価結果
① A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。 <input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。 <input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。 <input type="checkbox"/> 権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。 <input type="checkbox"/> 権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 子どもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。	a ○ ○ ○ ○ ○

【判断した理由・特記事項等】

「児童養護施設運営ハンドブック」が全職員に配布され勉強会が実施されている。その中で権利擁護についてテーマとして取り扱われている。法人として独自に児童の権利擁護規程が作成され、職員会議等で周知するだけでなく、内容について都度の見直しも図っている。また、子どもの権利とは何かを問うような実際の事例においては、施設職員でKJ法を使って合意を形成し、問題解決に結びつける等の取り組みを行っている。

(2) 権利について理解を促す取組

① A2 子どもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。 <input type="checkbox"/> 権利についての理解を深めるよう、年齢に配慮した説明を工夫し、日常生活を通して支援している。 <input type="checkbox"/> 子どもの年齢や状態に応じて、権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。 <input type="checkbox"/> 職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。 <input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないこと、また、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。 <input type="checkbox"/> 年下の子どもや障がいのある子どもなど、弱い立場にある子どもに対して、思いやりの心をもって接するように支援している。	b ○ ○ ○ ○ ○
---	--------------------------------

【判断した理由・特記事項等】

子どもと職員と一緒に「子どもの権利ノート」を読み合わせる機会を設けており、内容の周知を図っている。また、各ユニットに子どもの権利ノートの写しが掲示され、日常の支援を通して「子どもの権利」への理解を深める働きかけが行われている。CAP（子どもへの暴力防止）ワークショップを活用し、自他の権利についての正しい理解を学ぶ機会を提供している。年少児童に対して、「お互いの権利を大切にすること」をより分かりやすく説明していくことが継続した課題であると職員間でも認識されており、今後のさらなる取組みに期待したい。

(3) 生き立ちを振り返る取組

① A3 子どもの発達状況に応じ、職員と一緒に生き立ちを振り返る取組を行っている。	b
□子どもの発達状況等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	○
□事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	○
□伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	○
□事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	
□子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。	○
□成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返り、子どもの生き立ちの整理に繋がっている。	○

【判断した理由・特記事項等】

児童相談所(児相)からの措置書を確認し、密な連携を図ったうえで、子どもの状態に応じた生き立ちの振り返りが行われている。子ども一人ひとりにアルバムが作成され、子どもや家族がいつでも見られるように整理されている。子どもに自身のルーツや保護者の状況等の事実を伝える場合には、その影響や必要な配慮が事前に検討されているが、今後は職員間及び児相との一層の連携を図り、フォロー体制の強化を期待したい。

(4) 被措置児童等虐待の防止等

① A4 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	b
□体罰や不適切なかかわり(暴力、人格的辱め、心理的虐待など)があった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や体罰等の内容・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがつけられている。	○
□不適切なかかわりの防止について、会議等で具体的な例を示すなどして職員に徹底し、行われていないことを確認している。また、不適切なかかわりを発見した場合は、記録し、必ず施設長に報告することが明文化されている。	○
□子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けており、不適切なかかわりの具体的な例を示して、子どもに周知し、子ども自らが訴えることができるようにしている。	
□被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができており、被措置児童等虐待の届出・通告があった場合には、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	○
□被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明している。また、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。	○

【判断した理由・特記事項等】

朝会での報告や日々の児童記録等を読み取る中から「不適切な関わり」のおそれやその事前防止について、管理職から職員への確認が随時行われている。また職員間でも、児童対応のあり方についてお互いに指摘・話しあうことが意識されており、疑義があれば施設内で検証を行い、必要な場合は児相へ報告書を提出している。「天使の声」と名付けられた子どもからの意見箱が各ユニットに設置され、回答内容を開示する等活用されている。子どもが自ら訴えられるような取り組みについては、今後、子どもへの周知の徹底が望まれる。

(5) 子どもの意向や主体性への配慮		
	① A5 職員と子どもが共生の意識を持ち、生活全般について共に考え、快適な生活に向けて子ども自身が主体的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 快適な生活に向けての取組を職員と子どもが共に考え、自分たちで生活をつくっているという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 余暇の過ごし方について、子ども自身が自由に選択し、一人ひとりの趣味や興味に合った活動が行えるように支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの状況に応じて、金銭の管理や計画的な使い方などを学び、金銭感覚や経済観念が身につくよう支援している。	○
【判断した理由・特記事項等】		
<p>生活ルールや余暇時間の過ごし方等について、各ユニット毎に子どもとの話し合いが行われており、子どもの要望の実現に取り組んでいる。地域小規模施設では年間目標や日課についても子どもと話し合って個別に作成している。小遣いの使い方へのアドバイスや、高年齢児に対しては各種ツールを用いて自立生活に必要な経費を試算させ、経済観念の確立を促す取り組みを実施するなど、金銭管理について学ぶ機会を提供している。施設として、子ども一人ひとりが主体的に生活できるように支援している。</p>		
(6) 支援の継続性とアフターケア		
	① A6 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの生活の連続性に関して、施設全体でその重要性を理解し、入所や退所に伴う不安を理解し受け止めるとともに、子どもの不安を軽減できるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎えることができるよう、受け入れの準備をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもがそれまでの生活で築いてきた人間関係などを、可能な限り持続できるよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰や施設変更にあたり、子どもが継続して安定した生活を送ることができるよう、支援を行っている。	○
【判断した理由・特記事項等】		
<p>施設入所前から児相との情報交換を積極的に行い、可能な場合は一時保護所等に施設職員が外向いて、子どもとの顔合わせを実施している。写真入りの資料を用いて施設の紹介を行ったり、施設見学の受入れを行う等して施設入所に対する子どもの不安軽減を図っている。特に幼児については入所前の接触を複数回設定し、養育者（職員）と子どもとの関係構築をより丁寧に行っている。入所時にはウエルカムカードを作成、温かく迎え入れる配慮を行っている。退園後1年を経過しても必要な子どもにはアフターケアを継続しており、社会的養護退所者支援のための社会資源とも連携しながら、繋がりが途切れることがないように取り組んでいる。</p>		

② A7 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	a
<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	○
<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	○
<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	○
<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の共重先からの連絡、警察等からのトラブル発生時の連絡などにも対応している。	○
<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	○

【判断した理由・特記事項等】

民間企業によるサポート事業（自立支援プログラム）を利用した就労体験の実施や、施設退所者を支援するNPO法人と連携して生活全般に関する相談に応ずるなど、リービングケアの充実を図るとともに、アフターケアの充実にも努めている。退所者から入所中の子どもたちに向けた講話の場を設けて、実際の社会生活についてイメージさせたり、目標とする将来の姿を「わたしの育ちプラン」として子どもと一緒に作成し、その実現に役立つ地域資源に繋ぐ等している。また、将来、福祉的就労や生活支援に特別な配慮が必要と思われる子どもに対しては、本人の十分な理解を得たうえで、入所中から医療や教育、福祉の相談窓口等との連携にも積極的に取り組んでいる。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本	自己評価結果
① A8 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。	a
<input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。	○
<input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。	○
<input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。	○
<input type="checkbox"/> 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。	○
<input type="checkbox"/> 子どもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	○

【判断した理由・特記事項等】

子どもの問題行動について適宜カンファレンスが実施されており、各職種が各々観察したことを共有しながら、総合的にその背景を理解するよう努めている。なぜその行動に至ってしまったのか、職員は子どもの話を丁寧に聞いて受け止めることで、子ども自身にも自分の言動の背景や感情に気づけるよう働きかけている。問題行動の対応に迷う際にはスーパービジョンが効果的に活用されており「子どもと共に課題に向き合う」姿勢の再確認に至っている。利用者アンケートの結果からも、職員への信頼が感じられる内容の記載が多くみられる。

② A9 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活をいとなむことを通してなされるよう養育・支援している。	b
<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。	○
<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。	○
<input type="checkbox"/> 生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	○
<input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	
<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別的に触れ合う時間を確保している。	○
<input type="checkbox"/> 夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	○

【判断した理由・特記事項等】

子どもとの基本的な信頼関係を構築するため、買い物への同行や病院受診の付き添いの他、洗髪支援の希望にも応じる等、子どもと職員が個別に触れ合う時間を多く作るように努めている。「何気ない話を聞いてほしい」「側に座っていてほしい」「一緒に遊んでほしい」等、子どもによって異なる欲求があることを理解し、柔軟に対応しようとする雰囲気施設として醸成されている。「生活のきまり」と「個別の要求への対応」について、その裁量にあたっては各職員のスキルが重要な要素であり、さらなる研鑽と子どもの最善の利益を問いつける支援が望まれる。

③ A10 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	b
<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	○
<input type="checkbox"/> 職員は必要以上の指示や制止をしていない。	
<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	○
<input type="checkbox"/> つまづきや失敗の体験を大切にし、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	○
<input type="checkbox"/> 朝・夕の忙しい時間帯にも、職員が子どもを十分に掌握、援助できるように、職員の配置に配慮している。	○

【判断した理由・特記事項等】

子どもができたことはよく褒めて、できなかったことも、まずは子ども自身がその原因や結果に気付くように支援している。つまづきや失敗した場合の影響や、施設生活の中でのリスクも考慮しつつ、子どもが主体的に課題を乗り越えていけるよう「子どものトライ&エラーを見守る姿勢」を施設として大切にしている。また、子どもの生活のリズムを考慮した職員配置を行い、夜間等の手薄となる時間帯にはユニット間の協力体制を図って子どもの掌握・支援に努めている。一方で利用者アンケートの中には、職員が先回りして心配してしまうことを指摘する記載もあり、見守りと介入のあり方について、改めて職員間の認識の共有が望まれる。

④ A11 発達の状況に応じた学びや遊びの場を保障している。	b
<input type="checkbox"/> 施設内での養育が、年齢や発達の状況、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。	
<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。	○
<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	○
<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	○
<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	○
<input type="checkbox"/> 幼稚園等に通わせている。	○
<input type="checkbox"/> 子どもの学びや遊びを保障するための、資源(専門機関やボランティア等)が十分に活用されている。	○

【判断した理由・特記事項等】

各ユニット毎に、子どもの興味や発達段階に応じた遊具やメディア等が準備されている。施設行事としてサマーキャンプやピクニックを企画したり、スポーツ大会への参加に向けた取り組みを行う等、子どもが様々な経験を積めるようその機会が準備されている。学校との情報交換により子どもの能力や状況の把握を行い、学習ボランティアや外国人ボランティア等を活用して多様な学びや遊びの機会を提供している。日中の幼児の支援に関しては保育室が活用されているが、年齢段階に応じた保育内容の検討など、更に質を高めていける余地があり、今後の取り組みに期待したい。

⑤ A12 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	b
<input type="checkbox"/> 子どもが社会生活をいとなむ上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	○
<input type="checkbox"/> 子どもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束を一緒に考え作っていくようにしている。	○
<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。	
<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じ、身体の健康(清潔、病気、事故等)について自己管理できるよう支援している。	○
<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくように支援している。	○

【判断した理由・特記事項等】

日々の生活を通して、社会常識や社会規範への意識と理解が深まるよう、職員がその規範を示せるような支援を心がけている。高年齢で施設入所した子どもの中には、社会常識の習得に向けてより意識的な働きかけが必要となる者も多い。職員は子どもと話し合いを重ねながら、子どもが自身の現状を理解し必要な生活技術の習得に取り組めるよう支援している。また、福祉まつりへの参加やホテル会食等の行事を通して社会性の習得を促したり、パソコン教室を施設内で開催してSNSやインターネットに関する研修も行っている。地域社会への参加に関しては、更なる働きかけを期待したい。

(2) 食生活

① A13 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	a
<input type="checkbox"/> 楽しい雰囲気ですぐに食事できるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 食事時間が他の子どもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれたもとで、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。	<input type="radio"/>

【判断した理由・特記事項等】

職員が子どもと食事を共にし、コミュニケーションを取りながら適切な食事指導を行うことで、バランスの良い食生活が身に付くよう支援している。各ユニットごとに食器やランチョンマットが準備され、お誕生日には子どものリクエストメニューが提供されるなど、食事を楽しむための様々な工夫がなされている。調理実習の取り組みや週末の朝食はユニットで作るなど、基礎的な調理技術の習得の機会が確保されている。また、部活やアルバイトの帰園時間に合わせた食事の提供、体調に応じたメニューの変更にも柔軟に対応している。給食会議の結果や献立表が各ユニットに掲示され、季節の食材や郷土料理の説明など、食育への配慮が行われている。

(3) 衣生活

① A14 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	b
<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 発達状況や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	<input type="radio"/>

【判断した理由・特記事項等】

中学生からは洗濯の方法を教え、アイロンかけや衣類の修繕についても、個人の能力に応じて技術が身に付くよう支援している。TPOに合わせた服装について、適宜、職員から助言している。成長期の子どもに関しては、小さくなった衣類を本人の同意を得て他児童が利用することもあるが、保護者に買ってもらった等の思い出の服、手放しがたい服については個別に保管を行っている。年2回、季節ごとの衣類購入に職員が同行している。購入方法やブランド選択など、子どもの要望は拡大する傾向にある。対応可能な選択肢の検討について、今後の取り組みに期待される。

(4) 住生活

① A15 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。	b
<input type="checkbox"/> 子どもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	○
<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	○
<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	○
<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	○
<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れたり壊れたりしていない。破損個所については必要な修繕を迅速に行っている。	○
<input type="checkbox"/> 発達や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	○

【判断した理由・特記事項等】

平成30年にユニット化し、幼児部屋を除いて1人又は2人部屋となっている。各ユニットごとにキッチンのテーマカラーがあり、内装や備品の選択にも工夫がみられるなど、家庭的な雰囲気づくりに配慮している。備品が壊れた際には修理を迅速に行い、子どもが安心できる環境づくりに努めている。共有スペースの使い方や、他児童の居室には立ち入らない等、ルールの意識づけを重視している。居室の清掃、個人の所有物の整理・整頓については、子どもと話し合いを行い、勝手に部屋に入って物を触ってほしくない并希望する場合は配慮して対応しているが、片付けが苦手な子どもも多い中で、生活モデルの習得に向けた根気強い取り組みが期待される。

(5) 健康と安全

① A16 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	a
<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	○
<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	○
<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	○
<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	○

【判断した理由・特記事項等】

子どもの体調不良時に迅速な対応がとれるよう、医療機関の受診の支援はユニットを超えた協力体制をとっている。服薬はユニットごとに管理し、カレンダー式のツールや服薬チェック表を使用して、飲み忘れや誤配薬がないように努めている。児童精神科の受診に際しては、日々の状況等について丁寧な引継ぎを心掛け、薬の効能等は子どもにもわかりやすく説明し理解を図っている。緊急時の対応やAED利用について研修が実施されている。新型コロナウイルス感染防止に関して、子どもだけではなく家族交流時には家族の健康状態も確認するなど、細心の注意を払っている。

(6) 性に関する教育

① A17 子どもの年齢・発達状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	b
□他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	○
□性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	○
□性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。	○
□必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や、学習会などを職員や子どもに対して実施している。	○

【判断した理由・特記事項等】

外部講師を活用した「いのちの教室（性教育）」が定期的開催されている。LGBTへの配慮やプライベートゾーンの確認、他者との距離感等について、幼児の入浴支援や個別の心理面接を通して取り組まれている。自分の体と心を大切にすること、他者を尊重し人を愛する心を育てることについては「性（生）教育」として職員は意識的に対応し、日常的な子どもとのコミュニケーションの中でも、場面に応じて取り扱われている。また、性をめぐる諸課題に対して、専門家と協働し施設独自のプロトコル（対応マニュアル）が作成され、その内容については研修を通して改良を重ねられている。新人職員等がこれらの知識・スキルを確実に習得していけるよう、継続して質の高い取り組みに期待したい。

(7) 行動上の問題及び問題状況への対応

① A18 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	a
□施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもを安全に守る配慮がなされている。	○
□施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。	○
□不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	○
□くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。	○

【判断した理由・特記事項等】

子どもの暴力・不適応行動には複数の職員で対応することを原則としている。子どもが興奮している場合はまずはクールダウンさせ、落ち着いてから職員と一緒に振り返りを行っている。施設心理士の所見や子どもの背景等も踏まえ、不適応行動の要因を多面的に理解するよう意識している。児相や医療機関とも連携し、指導側と支援側の役割分担を図りつつ、関係者で協力して事態改善に向けた方策に取り組んでいる。常にチームとしての支援を心がけ、職員が子どもの問題を抱え込むことがないように、外部スーパーバイザーを活用して対応職員のフォローに努めている。対応方針は自立支援計画に立案して組織として対応している。

② A19 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	a
<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方について定期的に点検を行っており、不備や十分でない点は改善を行っている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 課題のある子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 暴力やいじめに対する対応が施設だけでは困難と判断した場合には、児童相談所や他機関等の協力を得ながら対応している。	<input type="checkbox"/>

【判断した理由・特記事項等】

子ども間の暴力やいじめ等がないか、職員は「監視」ではなく「共にそこにいる」配慮で見守りし、子ども同士の関係性の把握と必要に応じた介入を行っている。各ユニットの構成は子ども同士の特性・特徴や相性等を踏まえ慎重に検討して決めている。職員は日々の連携を大切にしており、大人が支えあう姿を示すことによって、人間関係の大切さを子どもが感じ取れるように心がけている。また、施設内の環境面においても、死角や職員配置の手薄な時間帯を意識し、予防的な確認が行われている。

(8) 心理的ケア

① A20 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	a
<input type="checkbox"/> 心理的ケアを必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 職員が必要に応じて外部の心理の専門家からスーパービジョンを受ける体制が整っている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 心理療法を行うことができる有資格者を配置し、心理療法を実施するスペースを確保している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	<input type="checkbox"/>

【判断した理由・特記事項等】

虐待を受けたり家族と分離された体験、発達障害等により、心理的ケアや個別の対応を必要とする子どもが多く入所している。心理療法室が確保され、心理療法担当職員2名、個別対応職員1名(公認心理師)の配置により、子どもの心理的ケアが行われている。入所時に児相から提供される支援方針をベースに、日々の生活の中で見えてくる子どもの課題とあわせて心理的ケアの必要性が検討され、その実施にあたっては自立支援計画にも位置付けられている。また、心理面接の内容は適宜申し送られ、現場の支援に活かされている。子どもの変化や対応への助言について、児相と連携して保護者へのフィードバックも行っている。

(9) 学習・進学支援、進路支援等

① A21 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a
<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるようにその時の本人の希望に沿えるような個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	○
<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	○
<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	○
<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	○
<input type="checkbox"/> 障害のある子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	○

【判断した理由・特記事項等】

ユニット内の居室には個別の学習机が配置されている。居室以外にも学習に利用できる部屋が確保されており、落ち着いた学習環境づくりに配慮している。日課に学習時間を設けて職員が宿題を見たり、学習ボランティアの活用も行われ、学習習慣が身に付くよう支援している。受験生以外でも希望する子どもには学習塾の利用支援がある。教育に特別な配慮を必要とする子どもについては、学校と連携してその特性等に応じた学習支援を行っている。登下校の送迎時の申し送りや連絡ノートを活用、小学校との情報交換会の開催、三者面談への出席等、学校とは密に連携をとっている。

② A22 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a
<input type="checkbox"/> 進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	○
<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、本人、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	○
<input type="checkbox"/> 就学者自立生活支援事業、社会的養護自立支援事業、身元保証人確保対策事業、奨学金など、進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報提供をしている。	○
<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	○
<input type="checkbox"/> 学校を中退したり、不登校となった子どもへの支援のなかで、就労(支援)しながら施設入所を継続することをもって社会経験を積めるよう支援している。	○
<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて支援、情報提供をしている。	○
<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。	○

【判断した理由・特記事項等】

自立を目前にした高年齢児の受け入れにも取り組んでおり、措置延長制度も活用しながら社会への足がかりが築けるよう丁寧な支援を実施している。高校中退等があれば通信教育へ進路変更する等、選択肢の幅を広げている。子どもの自己決定と自立への努力を見守りつつ、最善の利益とは何かを問い続けている。各種自立支援事業等の情報を提供し、進学にかかる学費だけでなく生活全般をイメージさせながら、本人の意向に沿った支援に努めている。また独自の制度(美さと自立支援会)を組織化し、退園者への資金援助も行っている。

③ A23 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b
<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	○
<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	○
<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	
<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	○
<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	○

【判断した理由・特記事項等】

高校生にはアルバイトを推奨し、社会経験や金銭管理等、自立に向けた課題の取り組みを支援している。履歴書の書き方、電話のかけ方、面接の対応方法なども必要に応じて職員がサポートしている。高年齢児には「わたしの育ちプラン」を活用し、自立支援計画へも反映させている。学校と連携して各種の資格取得も積極的に支援している。「子ども未来プロジェクト」の活用により、ホテルでの職場体験や県外研修にも参加させることができた。その後もホテル側の協力を得て、毎年2名ほど職場体験を受け入れてもらっている。実習先や体験先の更なる開拓の必要性については、施設からも課題として表明されており、今後の取り組みに期待したい。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

① A24 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a
<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。	○
<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	○
<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	○
<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	○

【判断した理由・特記事項等】

子どもの支援方針や家族交流の進め方等については、家庭支援専門相談員（FSW）が中心となりユニット職員も協力して、家族からの相談を受けたり意向の確認を行っている。FSWは可能な限り入所時に保護者と面接し、信頼関係の構築を図りながら、子どもと家族との関係づくりを支援している。家族へは毎月園だよりを送付し、子どもの写真や近況についても個別に報告している。外出・外泊交流時には、保護者に対して子どもへの関わり方や、洗濯や食事時間への配慮をお願いする等、適切な養育についての助言を行っている。また、家族交流後の子どもの様子は注意深く観察し、その後の交流内容の調整に反映させている。

(11) 親子関係の再構築支援		
① A25 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。		b
□家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。		
□面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。		○
□児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。		○
【判断した理由・特記事項等】		
<p>子どもの家庭復帰を検討するにあたっては、事前に要保護児童対策地域協議会の開催を依頼して、児相と連携しながら地域における支援体制の構築を確認している。家族交流の段階的实施を通して、家庭の養育環境の整備や保護者の養育スキルの向上を支援している。養育に関する保護者の相談に対しては、施設で取り組んでいる養育方法を踏まえつつ保護者と一緒に考え、ペアレントトレーニングも実施している。施設生活が長い子どもや家庭復帰が容易ではない状況にある子どもについても、家族との繋がりを求める気持ちに寄り添うことが必要であり、今後は現実的に対応可能な課題に絞って支援するなど、個別のケースに応じた支援方針の明確化が望まれる。</p>		